

(様式2)

平成29年度全国・東京都・荒川区学力調査に関する結果分析シート

学校名 荒川区立第一中学校

調査名	分析	実施結果 (正答率)	
		区	自校
区 学 力 調 査  全 学 年	<b>学年別傾向</b> 1年:すべての教科で正答率は、区の正答率を下回っている。  2年:国語・社会・数学・理科の正答率は、区の正答率を上回っている。英語は、区の正答率と同じである。  3年:社会・数学・理科の正答率は、区の正答率を上回っている。	<b>1年</b> 国 73.4 社 53.9 数 66.5 理 55.2 英 58.2	<b>【1年】</b> 国 69.5 社 51.1 数 62.7 理 53.1 英 54.9
	<b>教科別観点傾向区正答率を上回っているもの</b>	<b>2年</b> 国 67.5 社 46.3 数 55.6 理 47.4 英 61.2	<b>【2年】</b> 国 69.4 社 47.0 数 59.4 理 54.8 英 61.2
	国: 1年 関心意欲	<b>3年</b> 国 70.3 社 48.2 数 58.1 理 54.6 英 64.9	<b>【3年】</b> 国 68.6 社 53.2 数 59.6 理 54.7 英 59.0
	2年 関心意欲、話す能力、書く能力、読む能力、知識理解		
	3年 話す能力、読む能力		
	社: 2年 関心意欲、思考判断力、資料活用技能、知識理解		
	3年 関心意欲、思考判断力、資料活用技能、知識理解		
	数: 2年 関心意欲、見方考え方、数学的技能、知識理解		
	3年 数学的技能、知識理解		
	理: 2年 関心意欲、思考表現、観察実験技能、知識理解		
3年 観察実験技能			
英: 2年 関心意欲、外国語理解能力			

都 学 力 調 査  中 2	<p style="text-align: center;"><b>全体的な傾向</b></p> <p>国語・社会・数学は、都の正答率を下回っているが、理科・英語は都の正答率を上回っている。</p>	<b>都</b>	<b>自 校</b>
	<p style="text-align: center;"><b>観点別の傾向（都正答率を上回っているもの）</b></p> <p>国語→A：技能 B：取り出す力          社会→A：関心意欲          数学→A：関心意欲 思考判断 知識理解          B：取り出す力          理科→A：知識理解 技能 知識理解          B：取り出す力          英語→A：技能          B：取り出す力・読み取る力・          解決する力</p> <p>となっている。また、B読み解く力に関する内容では、数学の取り出す力、英語の取り出す力は、都正答率を約10ポイント上回っている。</p>	国語 72.7 社会 56.5 数学 54.2 理科 56.5 英語 62.9	国語 71.1 社会 54.2 数学 52.9 理科 58.8 英語 64.1
全 国 学 力 調 査  中 3	<p style="text-align: center;"><b>全体的な傾向</b></p> <p>国語A B、数学Bは、全国正答率を下回っているが、数学Aは0.4%上回っている。また、数学Bは、1.1%の差でしかなく、学力向上の取組みの成果が徐々に出てきている。</p>	<b>全 国</b>	<b>自 校</b>
	<p style="text-align: center;"><b>区分別の傾向（全国正答率を上回ったもの）</b></p> <p>国語A：学習指導要領領域の話す・聞くこと          学習指導要領領域の書くこと          評価観点の話す・聞く能力          評価観点の書く能力          数学A：学習指導要領領域の数と式          学習指導要領領域の資料の活用          評価観点の数学的な技能          問題形式の短答式          数学B：学習指導要領領域の資料の活用          評価観点の知識・理解</p>	3年 国語A 77.4 国語B 72.2 数学A 64.6 数学B 48.1	3年 国語A 72 国語B 69 数学A 65 数学B 47